

関西大学工学部化学工学科（現・環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科）

2026.5.12 発行

第 32 回 同 窓 会 報

〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35

TEL06-6368-1121

同窓会編集委員会 発行

<<< 巻 頭 言 >>>

「2025 年度を振り返って」

エネルギー・環境工学科 教授 2025 年度教育主任
朝熊 裕介

卒業生の皆さんにおかれましては、ご健勝で益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。

エネルギー環境・化学工学科では、長年、大学および学科の教育・研究に尽力された岡田芳樹先生、山本秀樹先生が 2025 年度末に退職されました。研究室運営からは離れられますが、新年度からも座学の授業を中心に引き続き学科運営にご協力を頂いております。2026 年度からは、荒木貞夫先生が教授として昇格され、「プロセスデザイン研究室」を「グリーンプロセス研究室」に名称変更され、また、木下卓也先生が引き続き「ナノ粒子工学研究室」を主宰されています。一方で、ご退職された先生に代わり、4 月から 2 名の先生、程冉冉先生、横尾健人先生が助教として着任されました。程冉冉先生は本学科出身であり 2025 年度博士課程後期(社会人)を経て、ヤマハ発動機株式会社での勤務を経て着任され、中川清晴先生とともに研究室を運営されます。学科創設以来初の外国籍の教員として、学科の国際化に向けて活躍されることを願っております。横尾健人先生は、九州大学大学院工学部物質プロセス工学専攻博士後期課程を修了され、住友化学株式会社での勤務を経て着任され、熱エネルギー工学研究室を朝熊と一緒に運営されます。化学工学の学科の出身であり、大手化学メーカーの経験を大学教育および研究に活かして頂けるものと確信しております。

印象に残った大学業務として、教育主任業務ではないものの併設校との「Advanced Science Program」に参加しました。内容は、5 回程度の実験を補佐、スライドの発表指導するものであり、関大北陽高校の学生と「電子レンジ内のマイクロ波分布」の解明を行った。この高大連携プログラムは、高校生が実社会や実生活との関わりから問いを自ら見つけ、自ら課題を設定しながら、分析・表現する能力を育む「探究」が目的であり、卒論指導とは異なる新鮮さを感じました。また、3 度のオープンキャンパスにおいてブースの説明や模擬講義を行い、高校生や保護者の声を直接聞くことができました。これらの高校生と関わる業務から、今後の 18 歳人口が減少していく中での理系の大学進学者を増やす試



みとして、併設校のみならず多くの高校と高大連携を推進していく必要を実感しております。

学科の就職に関しては前年度に引き続き好調であり、学部、大学院ともに 100%の就職率となっています。一方で、3 年生の夏休み前後にインターンシップ参加や自己分析を開始する等、活動の早期化が強まっており今後もこの傾向は続くと思われ、現状、M1 や 3 年生の秋学期において、インターンや面接が平日の日中に行われ授業の欠席が多くなることから、学業への集中力低下が懸念されています。「採用直結型インターンシップ」のルール化や、学事日程の調整などの対策が必要と考えられます。また、2 月末より中東情勢が緊迫しており、エネルギー関連、特に化学メーカーは、原料調達難とそれに伴う減産等深刻な影響を受けており、2026 年度の就職は予断を許さない状況が続くことが予想されます。OB・OG 訪問を通じて現場の本音や仕事内容を聞く機会は貴重であり、引き続き、卒業生から在校生への就職支援をお願いできればと思います。

着任して 2 年目に教育主任を拝命しました。学科内の先生、事務職員の多くの方のご協力のお陰もあり無事終えられ、関係各位に改めて御礼申し上げます。最後に、卒業生の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

<<< 退職に際して >>>

「関西大学での 21 年間を振り返りながら学生諸君に伝えたいこと」

環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科 教授
岡田 芳樹

この春、私は 21 年間勤めてきた関西大学を退職いたしました。2005 年 4 月に理化学研究所から関西大学に移ってきてから、この大学にて研究・授業に携わってきた中で、たくさんの思い出があります。多くの学生たちと過ごした研究室での日々、講義でのやり取り、廊下で交わした何気ない会話その一つひとつが、私にとってかけがえのない時間でした。

工学という学問は、答えが一つに定まらない場面が多くあります。理論は答えにつながる道しるべになりますが、最終的に道を切り開くのは、その人自身の「考え続ける力」と「試し続ける姿勢」です。私はこの 21 年間、学生の皆さんがその力を身につけ、成長していく姿を間近で見られたことが、何よりの喜びでした。思い通りにいかない実験、うまく動かない解析装置、中間発表や修論や卒論に追われる日々の中で、皆さんが粘り強く取り組み、仲間と支え合いながら前に進む姿は、私自身の励みにもなっていました。教える立場でありながら、皆さんから学ぶことの方が多かったと感じています。

私が研究室や講義の中で学生たちに伝えたいと願い続けてきた「本質」は、今も昔も変わりません。

1. 「なぜ？」という問いを捨てないこと

工学の原点は、目の前の現象に対する純粋な好奇心です。昔も今も、優れたエンジニアに共通しているのは、常識を疑い、「なぜこうなるのか?」「もっと良くできないか?」と問い続ける力です。その「なぜ?」という問いこそが、新しい技術を生む種となります。

2. 失敗は「データの宝庫」である

この 21 年間、私自身も、そして学生たちも、実験で失敗を重ねてきました。しかし、工学において失敗は敗北ではありません。それは「この方法ではうまくいかない」という貴重なデータの発見です。思い通りにいかない時こそ、じっくりとその結果と向き合ってください。その失敗のデータの中に成功へのカギが隠されています。

3. 「社会のための技術」を忘れない

技術はそれ自体が目的ではありません。誰かの困りごとを解決し、社会をより豊かに、安全にするための手段です。皆さんがこれから手にする高度な専門知識は、強力な武器になります。だからこそ、その技術が社会にとってどのように役立つのかを常に考えながら行動してください。

4 月から、私は一人の「工学屋の先輩」として、皆さんの活躍を遠くから見守ることになります。世界は今、解決困難な課題に溢れています。しかし、工学の力、そして皆さんの可能性があれば、必ず道は拓けると信じています。

自信を持って、それぞれのフィールドへ羽ばたいていってください。

「定年退職迎えた感謝 ―在職 42 年の思い出―」

環境都市工学部 エネルギー環境・化学工学科 教授
山本 秀樹

小生は、2026 年 3 月、環境都市工学部、エネルギー環境・化学工学科を退職いたしました。1984 年に本学に助手として、当時の工学部・化学工学科に着任したことが思い出されます。お陰様で、42 年の在職期間を終えることができました。在職中は、多くの学生さんと共に教育に邁進することができましたことが、良い思い出になっています。一方、研究活動では、米国留学（在外研究）や国際共同研究、企業との共同研究の経験が小生の研究スタイルに大きな影響を与えました。これまで見守ってくださった、学校法人関西大学に、深く感謝いたしております。また、歴代の環境都市工学部およびエネルギー環境・化学工学科（旧：化学工学科）の先生方、テクノサポートのスタッフの皆様、理工学部事務室の皆様には心から感謝を申し上げます。

小生は関西大学の学是である「学の実化」を教育の中でどのように具現化できるかについていつも考えていました。化学工学の主軸である「単位操作」を用いて、社会の様々なニーズに答えることは、小生の楽しみでもあり、方向性が得られたときの喜びを学生と分かち合うことができました。毎年度、化学プラント設計、化学プロセスデザインに結び付けるための、卒業研究テーマ探索に各種学会、セミナー、企業訪問などを実施しました。今となっては素晴らしい経験であり、良き出会いの場でもありました。また、研究成果として学生の皆さんが、学会で研究発表したり、学術論文、特許を申請することが、学生の成長に重要な経験となり、効果的な大学教育であることもわかりました。

個人的には、在外研究で出会った米国 Texas A&M 大学の Hall 教授、共同研究先の米国 NIST の Frankel 博士、ウイーン医科大学の Bruno 教授、Kiss 博士との出会いが研究スタイルを大きく変えました。大学は出会いの場であり、人生の方向性を自ら見つける場所でことを悟った次第です。卒業生の皆様には、関西大学で出会った学問と人脈を基礎に益々のご発展を祈念する次第です。42 年間、皆様に大変お世話になり、ありがとうございました。

小生は 2026 年 4 月から、関西大学・チェアー・プロフェッサー（特別任命教授）として、イノベーション創生センターにて、これまでの教育からは離れて、暫くの間ですが、共同・共創研究を企業と共に継続させて頂くことになりました。環境都市工学部・学科の皆様には心から感謝しております。今後ともよろしく願ひいたします。最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたしております。

<<< 卒業生に聞く >>>



「研究室で人とともに学んだ学生時代」

平成 7 年修士卒・徳永研究室
コスモエンジニアリング（株）
寺野 保

私は平成 7 年 3 月に本学工学研究科を修了し、以来コスモエネルギーグループ配下のコスモエンジニアリング株式会社に勤務し、30 年余りが経過いたしました。在学中は、徳永先生、そして本年 3 月をもってご退職される山本先生のご指導のもと、移動現象研究室に所属しておりました。

学生生活を振り返りますと、学部 3 年次までは学業よりもアルバイトや趣味に多くの時間を費やしており、今思えば、決して模範的な学生生活であったとは言えません。しかし、4 年次に研究室へ配属されて以降は、先輩方をはじめ、村山先生や研究室の仲間に恵まれ、時には同じ目標に向かって真剣に議論を重ね、また時には和やかに交流を深めながら過ごす日々となりました。そのような人との関わりの中で、自然と研究室に在籍する時間が長くなり、研究と向き合う姿勢が培われていったことは、移動現象研究室ならではの特徴であり、私にとって学生生活の大きな転機であったと感じています。

研究活動を通じては、文献を調べ、試行錯誤を繰り返しながら答えを探していく姿勢、さらには「正解」と思い込んでいたものを疑い、再考することの重要性を学びました。とりわけ山本先生には、常に優しく丁寧なご指導をいただきました。論文作成に際しては、研究内容の本質を的確に捉えたキーワードをご提示くださり、その切れ味の鋭さに、当時の私には到底思いつかないものだとの強い印象を受けたことを、今でも鮮明に覚えています。山本先生のもとで学んだ学生たちが、現在さまざまな分野で活躍していることは、先生の長年にわたる教育の成果を物語るものと言えるでしょう。教育・研究の第一線で本学の発展に多大なご尽力を尽くされてきたご功績に、卒業生の一人として深い敬意と感謝を表しますとともに、今後の人生におかれましても、ますますご健勝にて充実した日々をお過ごしになられることを心よりお祈り申し上げます。

社会人となった現在においても、学生時代に培った思考法や学び続ける姿勢は、私の確かな礎となっています。とりわけ、研究室での経験を通じて学んだ、個人で考え抜く力に加え、チームとして課題に取り組むことの重要性は、実務の場面において強く生きています。エンジニアリング会社の業務は、化学工学を基盤としながら、機械、電気、土木、制御など多岐にわたる分野の専門家と協働することで、初めて成り立つものです。互いの立場や考え方を尊重しながら最適解を導く姿勢が求められます。また、研究室での生活を通じて、人と関わり、信頼関係を築くことそのものに大きな価値があることを学びました。互いを理解し、時に支え合い、それぞれの立場で力を発揮する仲間がいるという意識は、困難な局面において大きな支えとなり、長い人生における貴重な財産であると感じています。化学工学が実社会において直接価値を生み出す学問であることを、このような人と人との協働の中で、実務を通じてあらためて実感しております。

在学生の皆さんに申し上げたいのは、現在学んでいる内容が、将来そのままの形で役立つ場面は限られて

いるかもしれないということです。しかし、思考の枠組みや問題解決の手法、困難に向き合う姿勢は、必ずや皆さんの力となります。どうか自信を持って学びを深めてください。

私は人事部に所属し、採用業務にも携わってまいりました。エンジニアリング会社の仕事や実務の現状について関心をお持ちの方は、いつでも気軽にご連絡いただければ幸いです。卒業生の一人として、後輩の皆さんの今後のご活躍を心より願っております。

またこの文章が、第一線でご活躍を続けておられる先輩方、ならびに長年社会に貢献され、現在は次代を温かく見守っておられる大先輩の皆さまにとりましても、ささやかながら共感や懐かしさを覚えていただける一助となれば幸いです。



「山本先生のご退職に寄せて」

平成 16 年修士卒・山本研究室

株式会社スリーボンド

松井 俊展

このたびは同窓会紙への寄稿の機会を頂き、大変光栄に思っております。私は平成 16 年に本学工学研究科を修了し、工業用接着剤メーカーである株式会社スリーボンドに入社いたしました。今年で 23 年目の勤務となります。入社後はまず開発部門に配属され、企業向けの接着剤・シール剤の製品開発に携わりました。その後、異動した品質保証部門では ISO9001 の認証維持・製品の苦情対応などの業務を経験した後、現在は環境管理部という部署で化学物質管理・法規制対応・ISO14001 等を担当しています。現部署では SDGs・環境負荷低減に関わる業務も行っており、学生時代に研究室で環境問題に直結する研究に取り組んでいたことを思い返すと、20 年以上の時を経て再び「環境」というテーマに関わっていることに不思議な縁を感じています。

また、曲がりなりにもこれまで社会人として過ごしてきた感想ですが、会社では研究開発も含めほぼ大半の業務において、「顧客」を優先した対応が必要となります。顧客との対話を通じて気づかされること、学ぶことが多く、自分の視野の狭さを思い知る場面も少なくありませんでした。一方で、学生時代を振り返ると、外部の制約が少なく自分のペースと裁量で試行錯誤しながら研究に取り組める環境であり、今更ながら、これは貴重な経験であったのだと感じています。

関西大学では、学部・大学院を通じて 6 年間お世話になりました。よき先生・友人にも恵まれ、大変充実した学生生活を送ることができたと思っております。4 回生からは、幸運にも配属を希望していた山本先生ご担当のプロセスデザイン研究室に入ることができ、主に機能性高分子ゲルやフロン分解に関する研究に取り組ませて頂きました。今回、山本先生がご退職されると伺ったとき、時間の経過の早さに驚くとともに、プロセスデザイン研究室での日々が思い出されました。

研究室に所属した 3 年間では、山本先生や先輩方の丁寧なご指導により、研究を進めるための基礎を教え

て頂きました。研究内容そのものが今の仕事に直結しているわけではありませんが（むしろそのような方は少ないと思いますが）、研究を進める中での文献調査・実験の計画立案・論文の書き方・説明の仕方・分析の知識などは、社会に出てからも応用できる内容であり、この基礎があったことにより、仕事において役立つ場面も多くありました。

研究室内の明るく和やかな雰囲気は今でも記憶に残っており、山本先生の人柄がそのまま反映されていたように思います。大学の先生というと、どこか近寄りがたいイメージを勝手に持っていたのですが、山本先生はそのイメージを良い意味で壊してくれました。明るく前向きで学生にもフレンドリー、かといって軽いわけではなく、研究に対する姿勢は誰よりも真剣で、熱い想いを持たれていました。

また、先日、久々にプロセスデザイン研究室 OB 会に参加させて頂いた際、山本先生のご挨拶で、「アクティブ・ポジティブ・クリエイティブ」の 3 つを大切に、と話されておりました。正直、学生時代に聞いた記憶はあまりないのですが、振り返ってみると、山本先生の姿勢そのものが 3 つの言葉に集約されていたように思います。社会人 23 年目となった今でも、参考になる言葉だと感じています。

「アクティブ：小さくてもいいから動き出すことで次の展開を生む。ポジティブ：困難な課題に直面した時、前向きに取り組むことで、周囲に与える影響が大きく違ってくる。クリエイティブ：既存の枠にとらわれず、新しい視点で物事を捉えること。」私は現在の自分の立場に当てはめて、このように解釈しました。卒業してから随分と時間が経ちましたが、また大切な考えを教えて頂き、感謝しております。

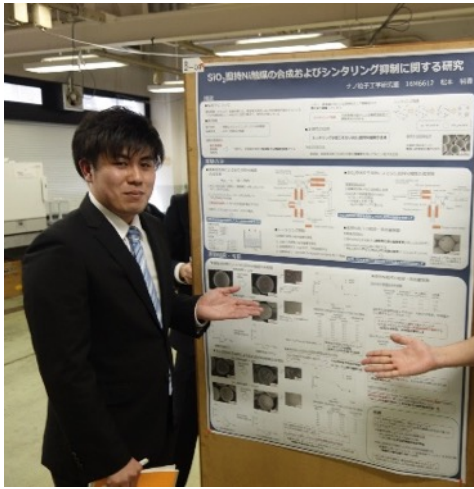
最後になりますが、山本先生が長年にわたり研究に尽力されてきたことに、改めて敬意を表します。これまでのご指導に対して深く感謝申し上げるとともに、山本先生の今後のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

「ナノ研での日々を糧に、社会を支える設計者として」

2018 年修士卒 岡田研究室
松本 将貴

私は、2012 年 4 月に関西大学環境都市工学部エネルギー・環境工学科に入学し、4 回生より、ナノ粒子工学研究室に配属しました。ナノ研では大学院を含めた 3 年間、研究室生活に勤しみ、私の人生において非常に濃密な時間でした。私の研究は、ニッケルをナノサイズで生成し、シリカへ高分散に担持させることで、いかに高性能な触媒を生成できるかというテーマで研究しておりました。時には、高価な部品を連続で破損してしまい冷や汗をかいたことや、夜遅くまで TEM の画像撮影に勤しんだり、徹夜で研究成果をまとめたりと苦労もあった研究室生活でしたが、先輩や同期、後輩たちと過ごした研究室生活は何物にも代えがたい楽しい思い出です。

また研究のサポート以外でも、木下先生にはラーメンや、テニスに、岡田先生には打ちっぱなしに連れて行っていただくなど、プライベートでも温かくご指導いただいたことは忘れられません。

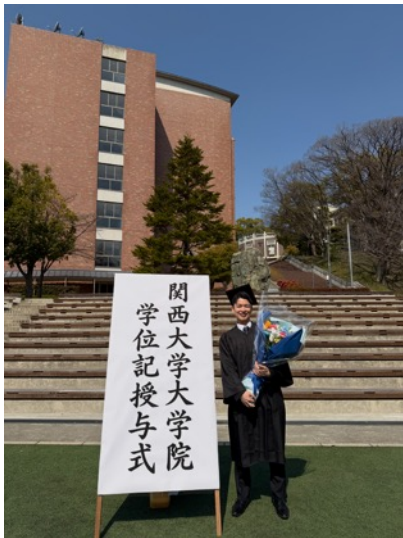


特に岡田先生には、卒業後も現在に至るまでゴルフをご一緒させていただいており、公私共にお世話になっております。2025 年度をもってご退職されるとのこと、長年の教育・研究生活、本当にお疲れ様でした。退職後もさらに挑戦したいことがあるとおっしゃっておいりましたので、岡田先生の益々のご活躍とご健勝を、心よりお祈り申し上げます。

そんな私も卒業から 8 年が経ち、現在は家庭を持つ身となりました。仕事では、ごみ処理場の設計業務に携わっております。実務の中でエネ環や研究室で学んだ知見が活きる場面もあり、学びの深さを再認識する日々です。家庭においても、岡田先生からいただいたアドバイスを胸に、仕事と家庭の「二刀流」で頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、このような執筆の機会をくださいました木下先生ならびに同窓会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。同窓会の皆様の今後益々のご発展とご健勝を祈念し、私の寄稿とさせていただきます。

<<< 学生の窓 >>>



「大学生活を振り返って」

2026 年修士卒・池永研究室

英保 裕也

私は 2020 年 4 月に関西大学環境都市工学部に入学し、大学院を含めた 6 年間で本学で過ごしました。入学当初は新型コロナウイルスの影響が大きく、不安な気持ちでいっぱいでしたが、振り返れば想像していた以上に充実した、かけがえのない大学生活を送ることができました。対面授業が再開された後は、友人とともに授業を受けて学びを深め、おいしい食事や旅行を通じて思い出を重ねる日々を過ごしました。その一つひとつが、今ではかけがえのない大切な記憶となっています。

中でも、触媒工学研究室に所属してからの 3 年間は、私にとって大きな成長の機会となりました。研究を始めた当初は分からないことばかりで、自分の未熟さを痛感しながら、先生や先輩方のご指導のもと課題に取り組む日々が続き、不安を感じることも多くありました。しかし、研究を進める中で一つひとつ疑問を解消し、理解を深めていくことで、新たな課題に挑戦する楽しさを実感できるようになりました。

また、先生方や先輩、同期、後輩との議論を重ねながら研究を進める時間は非常に有意義で、さまざまな視点や意見に触れることができた貴重な経験でした。このような環境に恵まれ、多くの方々に支えられながら成長できたことに、心から感謝しています。自分一人で考えることの大切に加え、周囲と積極的にコミュニケーションを取りながら共に成長していくことの重要性を学びました。

さらに、大学生活を温かく見守り、支えてくれた家族にも深く感謝しています。大学生活は決して楽しいことばかりではなく、時には苦しい時期もありましたが、そのたびに家族が寄り添い、話を聞いてくれたことが大きな支えとなりました。これからは少しでも恩返しができるよう、努力を重ねていきたいと思えます。

今後は、大学で培った知識や経験を活かし、社会に貢献できる人材となれるよう精進してまいります。最後になりますが、これまでの大学生活に関わってくださったすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



「大学生活を振り返って」

2026 年修士卒・村山研究室

権藤 勘太

私は 2020 年 4 月に関西大学環境都市工学部エネルギー・環境工学科（現：エネルギー環境・化学工学科）に入学し、博士課程前期課程までの 6 年間に関西大学で過ごしました。入学当初は、エネルギー環境問題の解決に貢献し、多くの人の役に立ちたいという思いから本学科を志望しましたが、化学工学についての理解は十分ではありませんでした。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン授業が中心となり、学びを深めることが難しい状況にありました。しかし、その後対面授業が再開され、学年が進むにつれて専門的な講義を受ける中で、化学工学の面白さとその社会的意義を実感するようになりました。

学部 4 年次には、資源リサイクルに関する研究がしたいという思いから資源循環工学研究室を志望しました。配属後は、当初から関心を抱いていた金に関する研究テーマに取り組む機会を得て、自身の興味の方向性を明確にすることができました。この経験を通じて研究職への志向が強まり、大学院への進学を決意しました。

修士課程では、白金族金属を対象とした新たな研究テーマに自ら志願して取り組みました。金に関する学びを深める中で、貴金属全体へと関心が広がったことが背景にあります。研究活動においては、学会発表や外部機関での研究、共同研究先への訪問、工場見学など、多くの貴重な経験を積むことができました。これらの経験を通じて、人前で話すことへの苦手意識を克服し、自身の考えを的確に伝える力を養うことができました。その成果として、学会において何度か受賞する機会にも恵まれ、最終的には紫紺賞を受賞することができました。

このような成長の機会を与えてくださった指導教員の村山先生、産総研の成田先生や鈴木先生をはじめ、多くの方々のご指導とご支援に深く感謝申し上げます。環境分野の最前線に触れる中で、リサイクル技術や環境問題に対する関心が一層高まり、現在は化学メーカーへの就職を決断するに至りました。大学院での研究活動を通じて、自ら考え主体的に行動する力も身についたと感じています。

振り返れば、大学入学からの 6 年間はあっという間でした。新型コロナウイルスによる困難な状況から始まった学生生活でしたが、その中でも多くの出会いと学びに恵まれました。コロナ禍を乗り越える中で得られた知見や気づきは、今後の人生において大きな財産になると感じています。

最後に、これまでの学生生活を支えてくださったエネ環の先生方、大学職員の方々、先輩、後輩、同期を初めとする皆様に、心より感謝申し上げます。皆様のご健康とご多幸、そして今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

■ 岡田 芳樹教授, 山本 秀樹教授がご退職

2026 年 3 月末をもって岡田 芳樹教授と山本 秀樹教授がご退職されました。岡田先生は 2005 年 4 月に関西大学工学部化学工学科・教授に着任され、21 年間に渡って学生教育、研究および学科・学部運営にご尽力されました。学部教育面では、「プロセス数理」、「外国書購読 2」、「プロセス最適化学」、「プロセス制御工学」、「ナノ粒子工学特論」等の数多くの科目を担当されました。山本先生は 1984 年に関西大学工学部化学工学科・助手に着任され、42 年間に渡って学生教育、研究および学科・学部運営にご尽力されました。学部教育面では、「ユニットオペレーション 1」、「外国書購読 1」、「化学プラント設計」、「環境熱工学」、「エネルギー・環境論」等の数多くの科目を担当されました。

長年にわたり本学の教育・研究に多大な貢献をされた岡田先生、山本先生の両先生に名誉教授の称号が授与されました。両先生には、引き続き、非常勤講師として学科の講義科目や実験科目をご担当頂きます。

■ 荒木 貞夫准教授が教授に昇任

2026 年 4 月より荒木先生が教授に昇任されました。

■ 程再再助教、横尾健人助教が着任

2026 年より程再再助教、横尾健人助教のお二人が新たに着任されました。程再再先生は、エネルギー材料研究室（中川先生）に所属され、横尾健人先生は、熱エネルギー工学研究室（朝熊先生）に所属され、教育・研究を行われます。

■ 応用化学科教室だより

2026 年度の応用化学コース長は工藤宏人教授、またバイオ分子コース長は岩崎泰彦教授です。キャリア担当は、工藤宏人教授と山縣雅紀准教授（応用化学コース担当）ならびに河村暁文教授と中井美早紀准教授（バイオ分子化学コース担当）です。

学科のホームページ（<https://www2.chemmater.kansai-u.ac.jp/index.html>）で、最新情報の詳細を確認することができます。

〇〇〇 編集後記 〇〇〇

第 32 回同窓会誌をお届け致します。「巻頭言」を学科教育主任の朝熊教授にお願い致しました。「退職に際して」では、岡田先生、山本先生より原稿を頂戴しました。「卒業生に聞く」では、寺野氏、氏、松井氏、松本氏より原稿を頂戴しました。学生からは、英保氏と権藤氏より原稿を頂きました。ご多忙の折、原稿の執筆にご協力頂いた皆様方に厚く御礼申し上げます。